

## 点検・評価ワーキンググループの開催について（案）

平成 年 月 日

仕事と生活の調和連携推進・評価部会 決定

## 1 趣旨

「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）憲章」及び「仕事と生活の調和推進のための行動指針」の点検・評価をするにあたって、「仕事と生活の調和」実現度指標の更新に向けた作業等を行うため、点検・評価ワーキンググループ（以下「ワーキンググループ」という。）を開催する。

## 2 構成

- (1) ワーキンググループは、別紙に掲げる者をもって構成する。
- (2) ワーキンググループに座長を置き、構成員のうちから仕事と生活の調和連携推進・評価部会長が指名する。
- (3) 座長は、ワーキンググループの議事を整理する。
- (4) 座長は、必要に応じ、関係行政機関の職員その他の関係者の出席を求めることができる。
- (5) 座長に事故があるときは、座長があらかじめ指名する者が、その職務を代理する。

## 3 公開

- (1) ワーキンググループは、原則、公開とする。
- (2) 座長は、ワーキンググループの終了後、速やかに、当該ワーキンググループの議事要旨を作成し、これを公開する。また、一定期間を経過した後に、当該ワーキンググループの議事録を作成し、ワーキンググループに諮った上で、これを公開する。

## 4 庶務

ワーキンググループの庶務は、厚生労働省その他関係行政機関の協力を得て、内閣府仕事と生活の調和推進室において処理する。

## 5 その他

前各項に定めるもののほか、ワーキンググループの運営に関する事項その他必要な事項は、座長が定める。

点検・評価ワーキンググループ 構成員名簿

阿部 正浩	獨協大学経済学部教授
佐藤 博樹	東京大学社会科学研究所教授
清水 誠	総務省統計局経済統計課長
武石 恵美子	法政大学キャリアデザイン学部教授
永井 暁子	日本女子大学人間社会学部准教授
樋口 美雄	慶應義塾大学商学部教授
三輪 哲	東京大学社会科学研究所准教授

(50音順)

## (参考1)

### 「仕事と生活の調和」実現度指標の見直しについて

#### 1. 現在の指標の考え方

「仕事と生活の調和」実現度指標は、我が国の社会全体でみた個人の暮らし全般に渡る仕事と生活の調和の実現状況(=個人の実現度指標)と、それを促進するための官民の取組による環境の整備状況(=環境整備指標)を数量的に把握し、その進展度合いを測定するもの。

個人の実現度指標は、「仕事・働き方」、「家庭生活」、「地域・社会活動」、「学習や趣味・娯楽等」、「健康・休養」の5分野から構成され、分野ごとに更に中項目、小項目が設けられている。指標の計算においては、それぞれの項目ごとに、仕事と生活の調和の実現度を代表すると考えられる構成要素(=統計指標)を抽出し、合成指標を作成している。環境整備指標については、分野を設けず一つの指標として算出している。

#### 2. 見直しの考え方

現在の指標の公表(本年3月)からあまり時間が経過していないことなどから、基本的には現在の指標の体系を前提として、構成要素(=統計指標)の選択が適当かなどの観点から見直しを行う。

その際、「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)憲章」で示された「仕事と生活の調和が実現した社会の姿」(就労による経済的自立が可能な社会、健康で豊かな生活のための時間が確保できる社会、多様な働き方・生き方が選択できる社会)の実現度を適切に把握するという観点も含めて検討する。

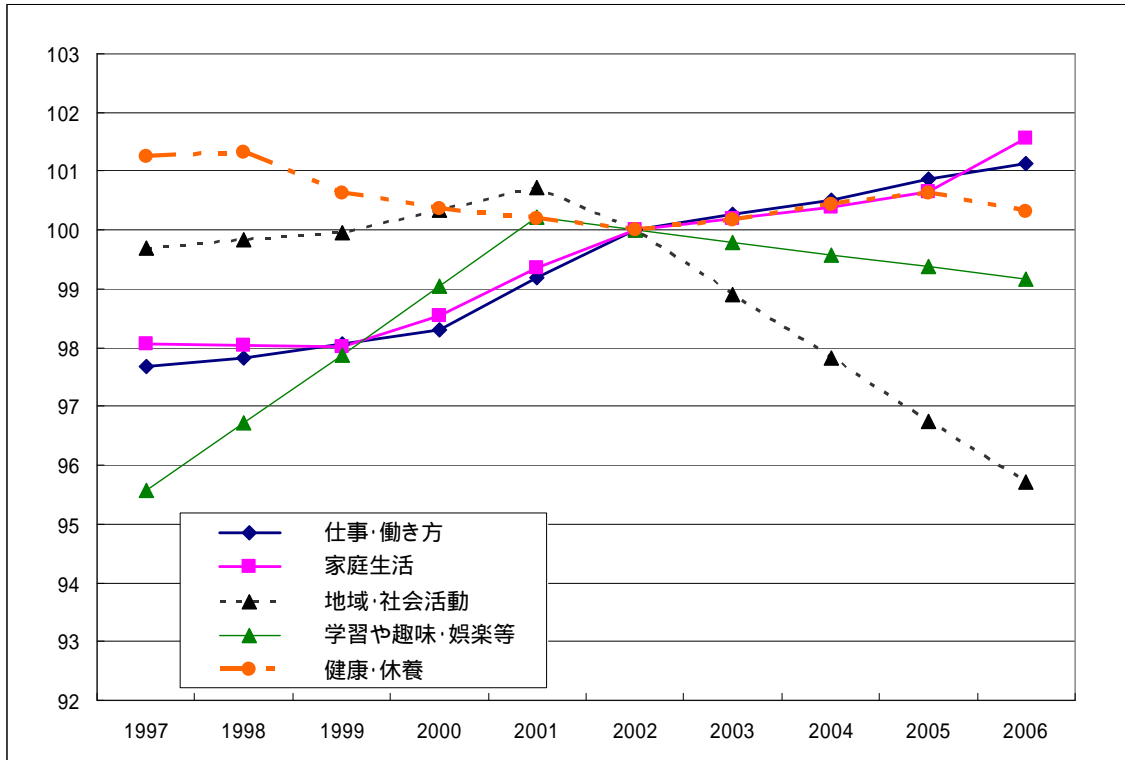
見直しに当たり特に留意する点として、

- ・ 「就労による経済的自立が可能な社会」の指標を作成すると、90年代後半以降一貫して改善しているが、この動きが適当かどうか、
- ・ 「家庭生活」、「地域・社会活動」、「学習や趣味・娯楽等」、「健康・休養」の分野は、「仕事・働き方」に比較して構成要素の種類も少ないが、更に改善する必要はないか、

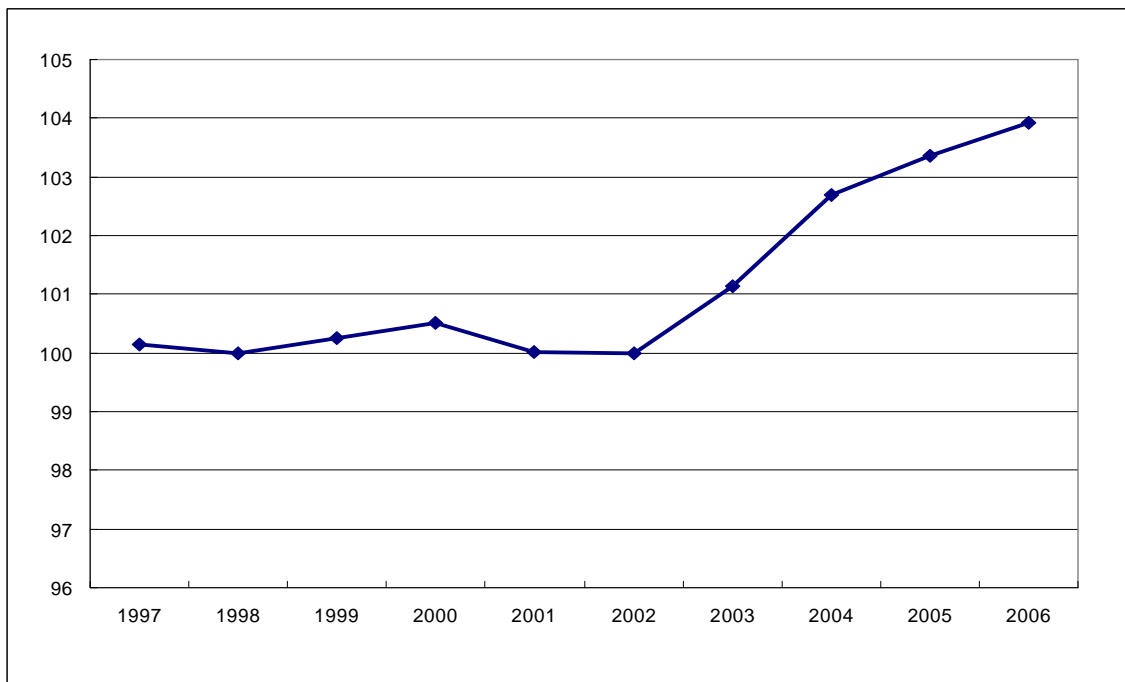
などが考えられる。

(参考2)「仕事と生活の調和」実現度指標の推移(平成20年3月公表)

1. 個人の実現度指標(5分野)

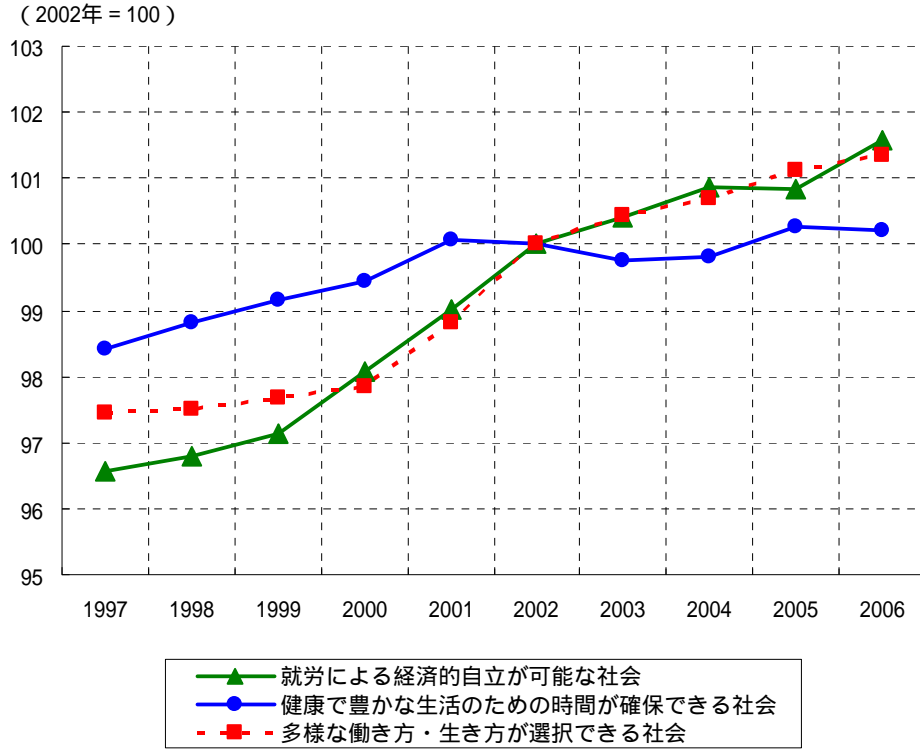


2. 環境整備指標

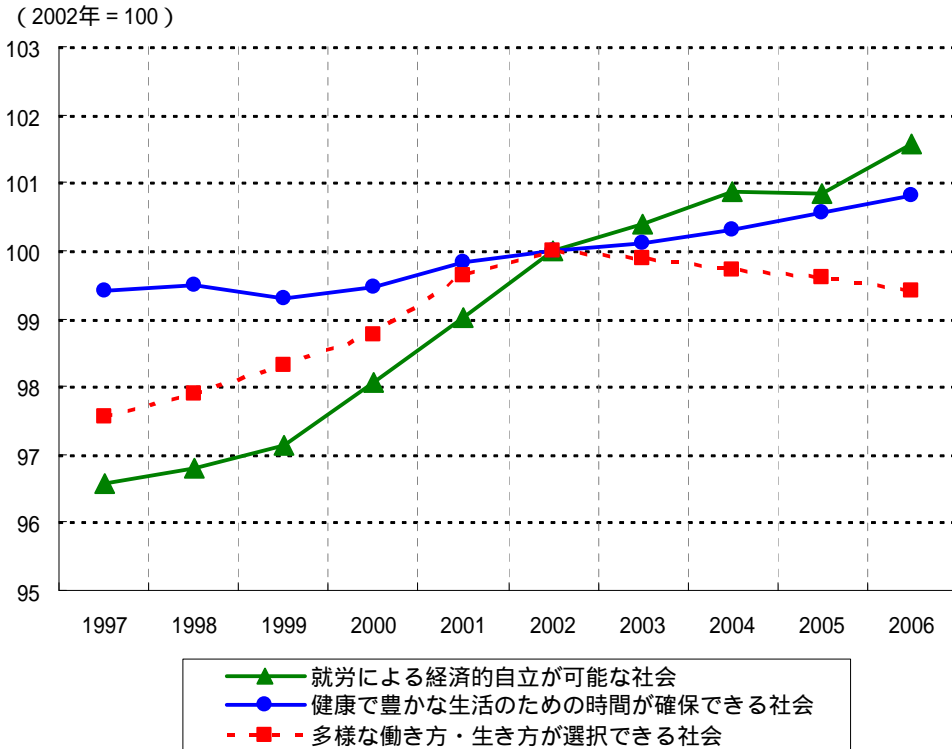


### 3. 「仕事と生活の調和が実現した社会の姿」から見た実現度指標

#### (1) 「仕事・働き方」分野の指標のみから算出



#### (2) 5分野の指標より算出



# 「仕事と生活の調和」実現度指標について

「仕事と生活の調和」実現度指標は、我が国の社会全体でみた個人の暮らし全般に渡る仕事と生活の調和の実現状況と、それを促進するための環境の整備状況を数量的に把握し、その進展度合いを測定するものである。

## 個人の實現度指標

「個人の實現度指標」は、5分野毎に指標を測定する。各5分野別の指標は更に、中項目、小項目指標に分かれる。小項目指標を行動指針における「仕事と生活の調和が実現した社会の姿」で整理することにより、その状況を把握することが可能となる。なお、各指標は、本行動指針で定める数値目標のほか、仕事と生活の調和に関連する統計（構成要素）を合成することにより作成する。



5分野、中項目及び小項目毎に合成指標を作成する。これにより、個人の實現度指標の進展度合いを測ることが可能となる。

1 「標準化」とは、単位や変動幅が異なるデータを同等に扱えるように調整すること。  
2 太字は数値目標(以下同)

## 環境整備指標

環境整備指標については、分野を設けず一つの指標として測定する。なお、同指標は、本行動指針で定める数値目標のほか、仕事と生活の調和に関連する統計（構成要素）を合成することにより作成する。

